



園通信 令和7年7月1日 第4号
キッドワールドセカンドこども園
園長 高木 良司

今年は、観測史上最も早い梅雨明けで「あめふりさんぽ」の機会が少なかったのですが、水たまりにバシャバシャと足を踏み入れたり、雨音を聴いたりして、子どもたちは満足だったようです。

先日は、3歳以上児クラスにつきまして、たくさんの保護者の方に保育参観においでいただきありがとうございました。それぞれの活動の中でお子さんの成長を目の当たりにして感じられたことと思います。ここで少し保護者の方の感想を披露したいと思います。

- 保育参観ありがとうございます。親が見ていると「カッコいい僕」モードで終始面白かったです。
- 保育参観とても楽しくてあっという間でした。普段のお友だちや先生と接する様子が見られて毎日楽しく学んでいるんだなと安心しました。
- 友だちをフルネームで呼ぶようになって…（中略）時間がわかるのかな？とはてなが最近多くあったのですが、教室を見ると時計の図があり、ひらがな表があり、点と点がすべてつながりました。いろいろなことを吸収して成長しているようで安心しました。
- 園での普段の様子を見られたのも、どのようにして過ごしているのかを先生から伺えたことも良かったです。
- 先生のお話の中での考える力、すぐ答えを渡すのではなくヒントをと話してくれたこと、日頃の生活の中でも大切にしないと一と気づかされたなと思います。（中略）日々細やかなところまで見て気づいてくれているところも感謝しています。
- いろんな顔を見ることもでき、グループの団結力もあり、これからの成長も楽しみになってきました。

たくさんの嬉しい言葉をいただきありがとうございます。しっかりと社会性が育ち、それぞれに考える力が備わってきている姿がご覧になれたことと思います。これに満足せず、園児一人一人との関わりを大切に、保護者の皆様により感動を与えられるように計画を立てて実践してまいりたいと思います。

さて、7月の大きなめあては「好奇心」です。園生活を笑顔で過ごす子どもたちは、あそびの中から様々なことを学んでいます。保育教諭は、学びの中から知的好奇心が生まれるような教育・保育活動を計画しています。その知的好奇心が大きく膨らむようにいっそう保育環境を整えていきたいと思います。

<7月の予定>

- 7月 7日(月) 七夕集会
身体計測週間(～13日、すもも・かりん・れもんぐみ)
- 7月 8日(火) プール開き
- 7月 9日(水) 特別想定訓練(不審者想定)
- 7月12日(土) 保育参観(いちご・あんず・きういぐみ)、お弁当日 🍱
- 7月14日(月) 避難訓練(地震想定)
身体計測週間(～20日、いちご・あんず・きういぐみ)
- 7月25日(金) 誕生会
- 7月29日(火) 健康診断



滝っ子にここらランド

6月13日(金)、幼保小連携アプローチカリキュラムの一環で、滝尾小学校へ出掛けました。

この日は、「滝っ子にここらランド」という催しがあり、滝尾小学校の異年齢交流プログラムで、いろいろな教室でゲームやクイズなどのブースが開かれていました。

れもんぐみ(年長児)は、事前に招待を受け、どの教室でどのような催し物があるのかを配置図で確かめ、3グループに分かれてどのルートを回るのかあらかじめ決めていました。当日はそのルートに沿って回りました。小学生から丁寧にゲームの説明を聞かせてもらってゲームに取り組んだり、途中で顔なじみの卒園児と出会ったりと、いろいろなことに楽しめた時間でした。

このような関わりから就学へのスモールステップを踏み、スムーズに小学校生活を送れるようになればと思います。



小学校のそばの横断歩道を渡っています



嬉しくて思わず声が漏れそうです



真剣に小学生の説明を聞いています



表情は真剣そのものです



手探りゲーム、何が入っているでしょうか？！



合紙にスタンプを押してもらいました



卒園児に会いました



幼稚園児とのグリーティングもありました



園に帰って手探りゲームを作ってみました



<おおいた七夕まつり、チキリン踊り参加について>

毎年当園の職員の精鋭が参加していたおおいた七夕まつり2日目のチキリン踊りにつきまして、今年度は、大分市保育協会が参加しないため、当園職員も参加しないこととなりました。毎年応援に来ていただいていた皆様に対しまして残念な思いでいっぱいです。しかしながら、大分市保育協会は、11月15日(土)に「保育フェス(仮題)」というお祭りを計画しています。当園としては、運動会の予備日となっていますが、参加予定にしていますので、そちらにご期待いただければと思います。よろしくお願いいたします。

キッドワールドエッセイ 69 家庭で行うタッチケア

キッドワールド総合園長 牧野桂一

前は、いま話題になっているタッチケアについて、その概要を説明しましたが、具体的なタッチケアの内容については、詳しく述べることはできませんでした。そこで、今回は前回に詳しく述べることはできなかった「家庭で行うタッチケア」の具体的な方法について考えていきたいと思います。タッチケアについては、専門的な方法がたくさん紹介されていますが、ここでは「抱っこやおんぶ、手をつなぐ、添い寝」など、幅の広い親子の触れ合い活動の中で、私たちが気軽に取り組み効果を上げることができるとして身近で行われているものの中から選んで紹介していきたいと思います。

はじめに、最も身近なタッチケアとして、子どもとお母さんとの触れ合いということに焦点を当てて見ていきたいと思います。生まれたばかりの赤ちゃんをお母さんの胸の上に抱いてもらうと、お母さんは自然と赤ちゃんの背中に手をまわしてやがてなでるようになります。それから、お母さんは赤ちゃんを抱きしめたり、さすったり、頬をすりよせたりしはじめます。このことが、親子のタッチケアの原点になります。ここでのタッチケアの触れ合いでは、親子がともに触れ合うことによって心地よさを感じ、気持ちよくなるのが何よりも大切なことになります。このような親子の自然な行動の中で、お母さんは我が子に親しみが湧き心底可愛いと思うようになり、子どもも親への愛着と信頼が生まれてきます。ここでの親子が楽しく過ごす触れ合いが親子の結びつきを強め、お母さんの体が子どもの心の居場所となるような環境を作り、子どもの発達を力強く支えていきます。

そこで、ここではこのような親子の触れ合いに重点をおいたタッチケアの具体的な方法について少し詳しく考えていきたいと思います。

タッチケアを始めるに当たっては、まず最初に子どもが相手から触れられることを認めるということが大切になります。そのためには何らかの方法で子どもがタッチケアを受け入れるという承諾の確認が必要になります。身体に触れようとする部位に触ってもいいですかということを確かめるのです。



子どもの承諾が得られて触れ合い活動に入る場合には、その前にゆっくりと落ち着いて深呼吸をします。深い呼吸をすることで副交感神経が高まり、リラックスする準備ができるのです。大きく息を吸って、大きく息を吐く。腹式呼吸を意識して数回深呼吸します。

次に、子どもの身体に手の重さを預けるように軽すぎず押しすぎないように手を置きます。この時、子どもに触れる手は暖かくします。冷たい手で触れると、緊張して嫌な気持ちになりリラックスできません。このタッチケアの触れ合い活動は温かい気持ちを伝えることが大切ですので、手が冷たい場合には、両手をこすり合わせたり温かいお湯に手を入れたりして子どもが安心できるように温めるのです。

三番目には、子どもの癒やしてあげたいところに手を当てます。その時呼吸は子どもに合わせるようにします。「手当て」という言葉がありますが、それは痛みのある部分に手を当てて治すという意味合いがあります。人間は、痛いところに手を当ててさすったりこすったりすると本能的に手を当てている部分の痛みを和らげることができるのです。



四番目には、手を当てているところをゆっくりと優しく撫でることで幸せホルモンといわれるオキシトシンの分泌を促すのです。手の動かす速さは、10秒間に5cmくらいの早さがいいといわれています。これは、かなりゆっくりですが、ゆっくり優しく撫でることで、リラックスでき、癒されるのです。そのようにするとタッチされている子どももタッチしているお母さんもお互いに癒し合うことができるといいます。手を当てる場所としては手、腕、足、脚、背中、お腹、顔など、水着で隠れる以外の場所はほとんど全身にできます。

五番目として触れ合い活動をした後は、しっかりと水分補給するようにします。タッチケアを行うと、お互いに癒されるだけではなく、相手から何かのダメージをもらったり与えたりすることがあるというのです。そのため、悪いダメージを外に出すためにお互いに水分をしっかり摂ることがいいと言われているのです。

一方、この親子の触れ合いタッチケアが有効に働き合うためには、活動中に大好きなお母さんがたくさん声かけをしてあげることが重要です。その時の声は少し高めめのトーンで、ゆっくりと優しく語りかけるようにします。そうすると、子どもはそれを一層気持ちよく受け止めることができます。このように声をかける時は、子どもの顔にお母さんの顔を近づけて、お母さんの表情を見せてあげると子どもは喜びます。赤ちゃんの視力は、0.01～0.02 くらいしかなく、ほとんど見えていませんが、顔と顔の距離を 20cm くらいにすると焦点が合いやすくなりお母さんの顔が見えるようになります。子どもは、お母さんの温もりが大好きですので、たくさん触れてあげることが必要ですが、新生児の場合はまだ触れられること自体に慣れていませんので、優しくゆっくりと子どものペースで触れながら、お母さんの手の温もりがしっかりと伝わるように配慮することも必要になります。

タッチケアを子どもに行う時の留意事項としては、タッチケアは子どもの身体に直接触るといふ微妙な活動ですので、「触る所は子どもの好きな部位だけにすること」と「子どもの気持ちを無視した無理な活動にならないこと」などについて十分に配慮する必要があります。



これまで説明してきました子どもと触れ合うタッチケアは、お母さんだけでなく、お父さんやおじいちゃん、おばあちゃんなど、子どもにかかわる全ての人に行ってもらえるものですので、家族ぐるみで取り組み、いっそう深い家族の絆を形成してもらいたいと思います。

なお、このタッチケアを行う年齢については、乳幼児期の全てが対象になると言われていますので、年齢に関係なくできるところから試みてください。

